# 第10回留学報告書

五十嵐祐花

2025/01/04

## 研究について

六月にASPLOSに投稿した主著論文が無事に採択されました。私のPhDの軸となっているExoというプログラミング言語の新たなデザイン、Exo 2についての論文です。本当に長くやっていたのでとにかくホッとしています。また、SIGGRAPH Asiaに共著で採択された、Knitting Semanticsについての論文の発表が十二月初旬に終わり、自分が長くやってきた二つの大きいプロジェクトの良い区切りになりました。一旦論文が採択されても、最終バージョンの準備やArtifact Evaluationと呼ばれるソフトウェアの評価の準備等でなかなか忙しく、秋学期は新しい研究が思うように進みませんでしたが、その分最終的に発表した論文のクオリティは上がったと思います。興味がある方は、是非arxiv( https://arxiv.org/abs/2411.07211 )をご覧ください。

東京で12月にあったSIGGRAPH Asiaという学会で発表している様子

## 進路について

私は今五年生で、同期で既に卒業や就職活動をしている人もおり、自分の将来について真剣に考えなければならない時期を迎えています。進路選択の為には自分の「夢」や「目標」を考え、それに沿った選択をしなければならないですが、「四十年後にこうなりたい」という夢を掲げたとしても四十年後には社会も価値観も予想が出来ないほど大きく変わっており、そもそも日本やアメリカという国があるかすらも絶対ではないため、長期的な目標であればあるほど抽象的にならざるを得ません。

社会にとって「良い事をしたい」と思いますし、それが私の根底にあるモチベーションなのだとは思いますが、「良いこと」や「正義」も時代や場所によって変わってしまいます。例えば、（少なくとも西欧世界では）当たり前のように不正義とされている「奴隷制度」や「女性に参政権を与えない」ことは、たった数百年前は聖書や法律に則った、「正しいこと」でした。しかし、数百年前に奴隷制度廃止を助けた人は歴史の正しい側におり、阻止しようとした人は歴史の間違った側にいると、我々は現在の価値観で断罪します。何が、どんな価値観が「良いこと」だったのかは未来から振り返ってみないと分からないし、今を生きている我々が何をすれば歴史の正しい側に立てるかどうかなんて、それこそ数百年後にしか分かりません。

曾孫や曾々孫の世代が誇れるような人生を歩むことを目標にしても、具体的にどうすればいいのか今を生きる我々が予想するのは不可能なため、どれだけ熟考を重ねたとしても最終的な判断は賭けになります。賭けだとしても、日々の小さい、信念に基づいた選択の積み重ねれば、仮に間違っていたとしても後悔のない人生が歩めるのかなと思いました。

前置きが長くなりましたが、今年の秋ごろにアメリカの大学のAssistant Professorのポジションに応募する予定です。アカデミアのジョブマーケットは運要素も大きいため、ポジションが手に入れば良いですし、手に入らなかったらその時考えようというスタンスでいます。今年は、就活を念頭に入れながら研究やトークに力を入れつつ、最後となりつつある学生生活を楽しめたらいいなと思います。

## ヒマラヤ旅行について

11/20-12/2の日程で、ネパールにあるヒマラヤ山脈の一角、アンナプルナをトレッキングしました。簡単な行程では無いため、秋学期はトレッキングに向けてランニング等、体力作りをしておりました。次のページにいくつか写真を貼りましたが、トレッキング中の景色が本当に美しく、将来また訪れたいと思いました。ネパールの料理は美味しく、ネパール人も優しく、国自体も今まで行った国の中で上位3本の指には入るほど気に入りました。

ネパールの後は十二月中旬まで日本に一時帰国し、SIGGRAPH Asiaに参加したり実家や祖父母の家に帰省したりしておりました。その際、昔は感じていた、日本社会に対する怒りが薄くなってきているのを感じました。もちろん、住んではいないですし、年をとったので「ナメられる」ことが少なくなったというのはありますが、昔よりも女性差別は良くなってきている印象を受けました。昔は日本から出たくて出たくてしょうがなく、それが留学の大きな動機にもなっていましたが、今は「絶対日本に帰りたくない」という気持ちは大分薄れました。もちろん、就活はアメリカでしますしまだ日本に帰る予定は当分無いですが、母国が良い方向に向かっている事を嬉しく思いました。

結びになりますが、留学を実現するチャンスを与えてくださった船井情報科学振興財団の皆様に誠に感謝いたします。この場をお借りして、深くお礼申し上げます。